

## ◆ トークショー ◆

13 時 30 分～ 講演 (1 時間)

14 時 30 分～ 休憩 (15 分)

14 時 45 分～ ディスカッション (45 分)

## 「研究最前線～今どうなってる？鳥と恐竜」



写真：黒澤義教

講師：真鍋 真

国立科学博物館グループ長

1959 年生まれ。東京都出身。

横浜国立大学卒業、米エール大学大学院修士課程修了、英ブリストル大学で博士号取得。

現在、国立科学博物館地学研究部生命進化史研究グループグループ長。

恐竜など、中生代の爬虫類、鳥類の進化を研究しながら、特別展の企画や図鑑の監修などを数多く手がける。

恐竜は 6600 万年前に完全に絶滅してしまったわけではなく、一部は鳥に姿を変えて現在も進化を続けているという考えは広く知られるようになってきました。最近の研究成果のような印象を受けますが、1860 年代、チャールズ・ダーウィンは始祖鳥の骨格は爬虫類だけれども、羽毛は鳥しか持っていない進化的な特徴であることから、始祖鳥が爬虫類から鳥類が進化した証拠であることに気がついていました。その後、恐竜の段階で羽毛がすでに出現していたことが明らかになり、現在ではどこまでが恐竜でどこからが鳥類か、その境界線を引くのが難しくなりました。始祖鳥も恐竜に分類すべきだという意見も出てきました。

他の恐竜に追われてか、樹上で過ごすようになった小型肉食恐竜の中で、前あしだけではなく後ろあしにも翼をもつものがあらわれました。彼らは 4 枚の翼を使って枝から枝に滑空するようになりますが、やがて羽ばたき能力の向上とともに後ろあしの翼が退化して、現在の鳥類の原型となったというシナリオが有力視されています。しかし、2014 年 7 月には、風切羽はもともと翼としてではなくディブレイとして機能していたという説や、恐竜はもともとすべて羽毛を持っていたという仮説が提唱されたり、2015 年 4 月には、翼ではなく膜でムササビのように滑空していたらしい恐竜がいたことなどが明らかになりました。わかったように思われていた恐竜から鳥類への進化ですが、まだまだたくさんの謎があります。

私は木の上にとまったカラスを後ろから見上げると、とても恐竜らしく感じられます。公園でお弁当をカラスに盗られた経験はもちろんのこと、鳥類は恐竜の一部で、系統学的には恐竜に分類されるという観点から私がカラスをみているからだと思います。愛鳥家の皆さんは恐竜と一緒に分類されることに違和感を感じていらっしゃる方が少なくないかもしれません。これからどのような証拠が発見されたら、そんな違和感が解消されるのか、会場の皆さんとの質疑応答を通じて一緒に考えてみたいと思っています。



聞き手：林 良博

JBF 実行委員長・山階鳥類研究所所長・国立科学博物館館長

1946 年生まれ。広島県生まれ富山県育ち。

東京大学農学部卒業後、ハーバード大学客員研究員、コーネル大学客員助教授、東京大学教授などを経て、現在（公財）山階鳥類研究所所長、国立科学博物館館長を兼務。著書は「ふるさと資源の再発見」、「ヒトと動物」「検証アニマルセラピー」等多数。

日時：平成 27 年 10 月 31 日（土） 13 時 30 分～ 15 時 30 分

場所：アビスタ（我孫子市生涯学習センター）ホール

主催：我孫子市鳥の博物館・（公財）山階鳥類研究所